

町民と語る会



10月29日から11月8日にかけて、町内各地区で町民と語る会が開催されました。
懇談会では、梅津町長からの行政報告を行った後、町の課題や地域づくりに関して町民の皆さんと役場課長等職員の間で様々な意見交換が行われました。

1. 小学校統合について

各地区で関心が多かったのが関小学校と湯原小学校の統合についてでした。

統合後の湯原小学校の使い道や、教育のあり方などに関心を寄せている方が多いようです。

Q 統合後、湯原小学校校舎はどのように活用するか。

A 現段階では決まっていないが、地域を始め、様々な人と意見交換を行い、外部の人が学舎、活動拠点とできるよ

うな複合的に使える施設として活用したいと考えている。

Q 統合して教育の質を高めることが大切。コミュニケーションが下手な子供も見受けられるので配慮をお願いしたい。また、競争することも大切なことだと考える。

A 統合後も、地域と一緒に教育活動は継続する。子供にあわせた目標設定を行い、能力の向上を目指したい。たくましく鍛える面も十分に踏まえていきたい。また、国際化ということで英語教育も進めたい。



2. 町内の放射線被害について

平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島原子力発電所の放射線被害については、未だ住民のみなさんの関心が大きいようです。

Q 町内の放射線問題が落ち着く見通しは？

A いつまでとは明言できないが、危険なレベルは脱している。放射性物質の中に半減期間が30年と長いものがあるため、下がらないところもある。落ち葉や雨水などで放射能の値が変わることもあるので、継続してみていく必要がある。

Q 柏木山放牧場は今後どうなっていくのか。

A 柏木山放牧場の一角に汚染物質の仮置き場を設置しているが、継続して安全性を確認している。放牧場自体の利用には、除染作業が必要だが、放牧場の土質などを考え除染は行わないこととした。町の未来



Q 地域づくり事業は今年度で終了となるのか。

A 来年度も続けていきたいと考えている。ただし平

のため放牧場にメガソーラーを導入したいと考えているが、農地転用に時間がかかっている。

3. 元気な地域づくり交付金事業について

元気な地域づくり交付金事業については、平成26年度以降も事業を継続したいという声が各地区で出されましたが、反面、予算や事業のあり方などの問題も語られました。

4. 道の駅、雪室の建設について

現在建設を進めている施設の、概要や管理運営について意見が述べられました。

Q 旬の市隣接地に建設中の雪室の規模や運営主体はどのようになるのか。

A 雪室は管理組合を作り指定管理者制度とした。建物は2階建てで1階は野菜中心の部屋、2階は穀物類を保管する予定。料金はまだ定めていないが、米1俵からでも利用することが可能。来年の2月から雪を貯蔵する。

Q 新しい道の駅の規模や運営主体はどのようになるのか。

A 平成26年3月に完成予定。4月中旬頃に移転を行い、

ゴールドデンウィーク前にはオープンしたい。新しい施設についても運営者を指定管理者制度で公募する。

5. 特養老人ホームについて

Q 特養老人ホームの増床について概要を教えてください。

A 現在のゆりの里に計40床の増設を考えている。内訳は個室20床と2人部屋10室。2人部屋は相部屋にする事で個人の金銭的負担を軽減する狙いがある。町内の待機者の入所が優先される。

6. 有害鳥獣対策について

Q 今年から地区別に追い払いに取り組んだ地区があったようだが、効果はどうだったか。

A 湯原、横川、滑津で取り組みがあった。経費は中山間集落協定の負担などを組み合わせ、農作物を守る手法として効果があったので来年度も継続したい。